



写真1
クルトゥルハイム聖堂(外観)

近隣散策

クルトゥルハイム聖堂

クルトゥルハイム聖堂(写真1)は、千代田区紀尾井町の上智大学四谷キャンパス構内にある、ネオルネッサンス風を基調とした建物です。クルトゥルハイムと呼ばれるようになったのは昭和になってからです。

遡ること明治29～30年(1896～1897年)、この建物は、第2次松方内閣で陸軍大臣を務めた高島鞆之助たかしまものすけの自宅として建てられました。明治45年(1912年)、大学用地を求めていたイエズス会は高島邸を中心とした土地を購入、旧高島邸はイエズス会修道院の聖堂として、カトリック大学である上智大学の原点となりました。その後、関東大震災や第二次大戦中の空襲でも被災から免れ、大学構内に現存する唯一の明治期の建築物として、当時の佇まいが今も残っています。

クルトゥルハイムは、ドイツ語で「文化」を意味するクルトゥルと、「館」を意味するハイムを合わせたものです。現在も種々のミサ、坐禅、祈りの集い、卒業生の結婚式などに利用され、その名のとおり長年にわたり「文化の館」としてカトリック文化を継承してきました(写真2)。

参考
○上智大学

https://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/catholic/cathocen_acts/cathocen_chapel.html



写真2 クルトゥルハイム聖堂(内部)

